

令和 7 年度 此花区運営方針の取組状況



此花区役所



「令和7年度此花区運営方針」

経営課題 1

区内の活性化と回
遊促進

経営課題 2

安心・安全・きれい
で環境課題に取り
組む街の実現

【防災・防犯・
環境】

【「気にかける」
地域づくり】

経営課題 3

区民の健康の維持・
向上

経営課題 4

子育て環境の向上

経営課題 5

各種施策展開の土台
づくり

【魅力創出・
伝わる広報】

【町会加入
促進等】

【社会的なつながり
が希薄な世帯等に
対する支援】



Point

上記の5項目を重点的に取り組む主な経営課題と位置づけています。

経営課題 1 区内の活性化と回遊促進

現状	課題認識	具体的な取組
・区内には様々な魅力スポットや観光資源があるが、一体的なエリアとしての魅力向上の取組が図られていない。	此花区の魅力を向上させ、目標・使命に掲げる街を実現するため、次の事項に取り組む必要がある。 ・ 区内回遊促進を図り、区内を活性化すること	・ 西九条駅周辺にイルミネーションプロジェクトとして区民、団体、事業者を巻き込んだ取組を実施：令和7年7月～
・ 区内を回遊するための交通アクセスが充実していない。	・ 西九条駅を関西No1リゾートエリアへの玄関口として位置づけ、注目される街とすること	・ 西九条が「関西No1リゾートエリアへの玄関口」であることについて、各種メディアやSNS等で放映・掲載：令和7年4月～
・ 西九条駅から舞洲・常吉などの魅力ある湾岸エリアへの東西のつながりが十分ではない。	・ 舞洲・常吉エリアをエリアとして活性化・ブランディングし、湾岸エリア全体としての魅力を一層向上させること	・ 官民共創・民民共創プラットフォーム「ウェルビーイング此花」を通じた官民共創・民民共創の取組により、舞洲・常吉エリアの活性化とブランディングプロジェクトの立ち上げ及び着手：令和7年4月～

経営課題 2 安心・安全・きれいで環境課題に取り組む街の実現 【防災・防犯・環境】

現状	課題認識	具体的な取組
災害時に津波避難ビル等へ避難することを知らない区民の方が多く、街の美化や環境問題への取組が十分ではない。	安心・安全・きれいで環境課題に取り組む街を実現するため、次の事項に取り組む必要がある。 ・災害が発生又は発生するおそれがある場合に、全ての区民が自助・共助・公助により適切に避難ができること	 ・令和8年2月に 地域一斉の津波避難訓練 の実施を予定している。ひとりでも多くの命を救うため、可能な限り屋内や軒下などの適切な避難先の選定に努め、事前に各地域とワークショップを重ね、各種課題に対処する。 ・優先度の高い避難行動要支援者に対し、個別避難計画の策定を推進する。支援者の選定が困難な方には、地域や事業者等に支援協力を依頼する。 ・ マイ・タイムライン（私の防災行動計画） の更なる周知に努める。
	・街の美化や環境問題への取組が推進すること	・既存の ごみ拾いアプリ「ピリカ」 の活用に加え、環境問題の取組を官民共創で構築したうえで、多くの区民、事業者を巻き込む。

経営課題 2 安心・安全・きれいで環境課題に取り組む街の実現 【「気にかける」地域づくり】

現状	課題認識	具体的な取組
・ 少子高齢化が進行し、人と人とのつながりが希薄化する中、「8050」問題やヤングケアラー問題など福祉課題が一層複雑化、多様化するとともに、深刻化している。 ・ 支援が必要であるにもかかわらず、自ら支援を求めることが困難、あるいは、支援を拒むケースが増加している。	安心・安全・きれいで環境課題に取り組む街を実現するため、次の事項に取り組む必要がある。 ・ 「気にかける」地域づくりが実現し、誰もが安心して生活できる状態（～気にかけるつながる支えあう～）を実現すること	・ こどもから高齢者まで見守りを必要とする方へ見守り活動を行うとともに、必要に応じて行政機関や地域の関係団体へつなぐなど、地域のつなぎ役を担う「このはな地域見守りタイ」事業を実施している。（令和6年度末現在のボランティア数は257人） ・ 「このはな地域見守りタイ」のボランティアの募集に際して、ICTツールを活用して、ネットからの申込が可能なように仕組みを構成している。 ・ 新たな担い手の確保・育成を重点的に行うため、関係団体や地域などに働きかける。（ボランティアの目標数 280人（目標年次：令和7年度）） ・ また、ICTツールを活用した「みまもりあいプロジェクト」を推進し、見守りにかかわる数を増やす。

経営課題 3 区民の健康の維持・向上

現状	課題認識	具体的な取組
高血圧等、生活習慣病の有病率が市内でも突出して高く、患者一人当たりの医療費も高い傾向にある。	区民の健康の維持・向上を図り、目標・使命に掲げる街を実現するため、次の事項に取り組む必要がある。 ・区民の健康に対するリテラシーを官民共創で向上させるとともに、行動変容を促すこと。	様々な区民との接点を持ち、健康意識改革のための周知啓発を行う。 ・区内スーパーなどの商業施設等に働きかけ、様々な年代へ血管年齢測定等を実施し、生活習慣病の予防等に役立つ各種検診や健康診査の受診啓発を行う。 ・医師会や訪問看護ステーション連絡会と連携し、区民向けに血管年齢測定等や健康相談を行うとともに、多職種の情報共有の場を設け、区民への健康意識向上とともに多職種の連携を密にする。 ・区内の企業や病院等に働きかけ、区民の健診データ等を共有し、健康に関する周知啓発を行う。

経営課題 4 子育て環境の向上

現状	課題認識	具体的な取組
スクールカウンセラーの配置は、中学校では週1回の配置であるが、小学校では2・3週間に1回の配置であり、相談したいときにすぐに相談できる体制でない。	子育て環境の向上を図り、目標・使命に掲げる街を実現するため、次の事項に取り組む必要がある。 ・学校において、不登校、ヤングケアラー等の児童生徒が増加し、今まで以上の対応が必要になってきている。	・ スクールカウンセラーを増員 し、こどもとその保護者への心理的サポートの強化を行う。 島屋小・西島小 2週に1回 → 週1回 上記以外の6校 3週に1回 → 2週に1回 中学校（3校） 週1回（変更なし）
こどもの居場所が急速に増えたが、連携が不十分である。	・こどもの居場所と区役所又は区社会福祉協議会との間において、情報提供や情報交換を行うことにより、安定的かつ効率的な運営を図る必要がある。	・此花区こどもの居場所連絡会の共同事務局である 此花区社会福祉協議会と連携 し、公式LINEにて、区役所作成の支援の気づきのポイントやつなぎ方などを定期的に配信し、気になる子どもの築き力の向上に取り組むことで連携の強化を図る。
「全国学力・学習状況調査」や「大阪市小学校学力経年調査」において、学年が上がるにつれて、「将来の夢や目標を持っている」と回答する子どもの数が減る傾向にある。	・夢や希望を継続して持ち続けるための取り組みの一つとして、目の前の課題に対してよりの確に対処できるよう、論理思考力をつけ、「生きる力」をはぐくみ、自分で解決できるという自信を持つことが必要である。	・此花区すみす芸人のかわばたくんに協力いただき、 論理的思考力クイズ「名探偵このはちゃんからの挑戦状」の動画を作成 し、区広報誌やLINEなどで発信。学校や町内掲示板へのポスター掲示の協力依頼を行い、地域での論理的思考力の浸透を図る。

経営課題 5 各種施策展開の土台づくり 【魅力創出】

現状	課題認識	具体的な取組
・ 区の魅力創出と効果的な情報発信により住民満足度を向上させ、「此花で良い」ではなく「此花が良い」と“選択”される街とすることで、人口減少に歯止めをかける必要がある。	あらゆる施策展開に共通する土台として次の事項に取り組む必要がある。 ・ 「住むなら此花区！」と思える街を実現していくために、企業等と共創・連携し、此花区に新たな魅力を創出していくこと	・ 官民共創・民民共創プラットフォーム「ウェルビーイング此花」を通じた新たな共創プロジェクトの立ち上げ及び着手：令和7年4月～

経営課題 5 各種施策展開の土台づくり

【伝わる広報】

現状	課題認識	具体的な取組								
・区内への情報発信媒体は、広報誌とLINEを主としている。此花区公式LINEの現状の登録者数は順調に増加しているものの、区民の5%程度である。 【LINE登録者数】 （ブロック数を除く） <table><tr><td>令和6年6月</td><td>8 6 9 人</td></tr><tr><td>令和7年3月</td><td>1, 9 9 7 人</td></tr><tr><td>令和7年5月</td><td>2, 5 5 1 人</td></tr><tr><td>令和7年6月</td><td>2, 8 0 1 人</td></tr></table> （此花区人口約63,000人） ・此花区公式LINE画面にリッチメニューを導入し、此花区のホームページに掲載している行政情報を100%閲覧可能とした。（令和7年4月）	令和6年6月	8 6 9 人	令和7年3月	1, 9 9 7 人	令和7年5月	2, 5 5 1 人	令和7年6月	2, 8 0 1 人	・LINE登録者数を増やし、情報発信や施策に反映するための土台作りを行う。 ・「伝わる」情報発信に取り組むとともに、ターゲットを意識した効果的な媒体選定により、多くのあらゆる世代の区民が必要な情報を容易に収集できるようにすることが必要である。 ・発信するコンテンツの乏しさや発信力に限界がある。（発信内容の充実が必要。） ・区外の方へ魅力を伝え、此花区に関心を持ってもらうための配信力が弱い。	・区民が多く集まるイベント（区民まつり等）でLINEの登録者数を増やす。 ・広報誌にてLINE登録と関連付けてプレゼント企画を行う。 ⇒5月24日にアートイベントにて抽選会を実施。 11月2日のアートイベント、10月の区民まつりでも実施予定。 ・乳幼児健診、保育所入所相談等でLINE登録を呼びかけ、子育て世代の登録者数を増やす。 ・LINEチャットボットやLINEから遷移するHPの整理を行い、情報にたどり着きやすい導線を築く。 ・広報誌等による情報発信 月1回発行の広報誌に加え、此花区の魅力発信にかかる動画を2カ月に1度程度、YouTube及び区役所入口のサイネージで広報する。また区民や来訪者の関心が高いイベントについて、LINEを活用して動画配信を行うとともに拡散力のあるYouTube、Instagram、Xなどでも配信する。
令和6年6月	8 6 9 人									
令和7年3月	1, 9 9 7 人									
令和7年5月	2, 5 5 1 人									
令和7年6月	2, 8 0 1 人									

9

経営課題 5 各種施策展開の土台づくり 【町会加入促進等】

現状	課題認識	具体的な取組
・町会への加入率は低下傾向にあり、地域活動の担い手も高齢化している。 ・地域活動協議会の活動にかかる補助金の補助率が100%となったものの、申請や精算業務等会計事務について地域への支援が引き続き必要な状況である。	あらゆる施策展開に共通する土台として次の事項に取り組む必要がある。 ・地域が地域課題に対応でき、日常及び非日常時において「共助」が成立し、多くの住民が暮らしやすいと実感できる状態にすること	此花区町会加入促進アクションプランに基づき行われる地域を取組を支援するとともに、一括補助金の会計事務の理解促進や負担軽減を図るため、事務説明会等を地域活性化支援事務所（このはなまちセン）を活用しながら複数回実施していく。

経営課題 5 各種施策展開の土台づくり

【社会的なつながりが希薄な世帯等に対する支援】

現状	課題認識	具体的な取組
・「8050」問題やヤングケアラー問題など福祉課題が一層複雑化、多様化、深刻化している。 ・複合化した課題を抱えた世帯が増えており、一つの相談支援機関だけでは、把握や解決することが難しい。 ・社会的なつながりが希薄な区民や世帯に関する問題が生じている（増えている）。	あらゆる施策展開に共通する土台として次の事項に取り組む必要がある。 ・社会的なつながりが希薄な世帯や複合的な課題を抱える世帯に対し、適切な支援が行えるようにすること	・複合的な課題を抱えた方やその世帯を支援するため「総合的な支援調整の場（つながる場）」を開催する。 ・生活困窮者の早期発見及び支援を求めることが困難な人への自立を支援するため、関係機関による支援に関する情報や考え方を共有し適切な連携のもとでの対応を行う支援会議、生困シェア会議を開催する。 （生活困窮者自立支援法に基づく支援会議又は「つながる場」の定期的な開催 年12回以上 （目標年次：令和7年度））